

寒冷地仕様住宅に関心

苫小牧 サハリン企業家ら視察

【苫小牧】ロシア・サハリン州の行政幹部や企業経営者ら14人が13日、苫小牧市を訪れ、省エネに優れた寒冷地仕様のモデル住宅を視察した。

道内の寒冷地向け技術をロシアにPRする道の事業で来日。13～17日に苫小牧、ニセコ、札幌などを巡り、住宅構造や廃棄物をエネルギーとして再利用する技術などを視察する。

苫小牧では、室蘭市の住宅メーカー「住まいのウチ



苫小牧市の省エネモデル住宅を視察するロシア人たち

イケ」が苫小牧市ウトナイ北に昨年11月に建てたモデル住宅（木造2階建て）を訪問。エアコンにつないだ管を各部屋に通して暖気を送り、通常の電気暖房器1台で住宅全体を暖かくする構造で、参加者たちは技術開発担当者の説明を熱心に聞いていた。

サハリン州知事相談役で建設会社経営のアリペロビツチ・ビクトルさん(64)は「とても快適。電気だけで暖かいのは低コストで興味深い」と関心を示していた。

(山田一輝)